

おお大勝利

令和3年度 山東サッカー一部報第4号 (7月15日)

サッカー一部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

3年生 雨中のリーグ戦にて有終の美を飾る

7月4日(日)、10日(土)に県リーグ戦第4節と第5節が行われました。

第4節の相手は羽黒B。会場は東根中央公園(人工芝)。県総体準々決勝でも使用された会場で、元は東根工業高校の敷地。県総体でもそうだったが、駐車場から降車せず観戦することは黙認されている(公園利用者から外すことができる)。無観客を謳う今年のリーグ戦を全然できず、残念に思っていた保護者の皆様の中には車中から観戦した方がおられたかもしれない。

3年生はこのリーグ戦の2試合をもって高校サッカー生活を引退する。山東では、IHに行けなかったとしても、リーグに参加する者の責務としてリーグ1巡まで(1回総当たりの第7節まで)リーグ戦を戦うという伝統でこれまで来たが¹、今年はコロナ対応の関係でリーグ戦が延び延びになったので、例年並みの7月10日で引退とさせてもらった。ということは、第4節はプレ引退試合ということになる。

痛風を克服した? **清野総監督(後援会名誉会長)**も、**後藤報道局長**とともに久しぶりに会場にいらっしゃる。観戦はダメだが、両先輩はチームスタッフとして届け出て、もちろんベンチ入り。さあ、3年生のプレ引退試合どうなるか。

試合が始まると、すぐ羽黒Bのペースとなる。羽黒の選手、パスワークにも確かなものがあるが、それ(正確性)以上に、相手の逆を取るトラップ、ボール運びが素晴らしいし、パスをスルーして反転して落しを受けるなどの発想が素晴らしい。といっても、一定以上の選手からすれば当たり前前のプレーなのだが、山東の選手にとっては練習含めて内輪では誰もやらないので「見たこともないプレー」「準備の想定を超えたプレー」となっており、まったく対応できない。こういう試合の典型だが、同様に派手なことができないからではなく、**ボールと相手の体との間に自分の体を入れて奪いきる正しい球際や、ヘディングやキックのクリアによる陣地の回復**という地味なことができないことにより、前半17分あっさり失点。昨年の選手権の羽黒戦(の1点目の失点シーン)でもそうだったが、ボールを奪いきる機会を簡単に逃しては、そりゃやられる。DF3人、MF4人、FW3人の343というシステムだが、実際は541という守備的な布陣の山東。それでも、相手のスキルを存分に発揮させてしまっている。

ボールは動いていないのに、相手の体のフェイクモーションというかフェイントにより山東の守備者が大きく動いてしまい、**ボールとゴールを結んだ基本の守備ポジションを維**

¹ 山東第64回卒のヨシタカの代から始まった伝統です。今年3月に卒業したコウダイの学年が山東第71回卒なので、10年弱続いた伝統ということになります。

持できず、外側に行き過ぎて簡単に内側に入られたり、前につっかけすぎて裏を取られたりするシーンも目立つ。ボールにチャレンジせず相手のボール保持に慎重に対応するのなら、相手の体なんか見る必要なく、ボールにだけ集中しなければならぬ（そうすれば相手のフェイントにいちいち反応しなくなる⇒ボールはそんなに動いてない！）。逆に、ボールにチャレンジするなら、ボールにだけ向かわず、相手の体に自分の体をぶつけながら体を入れてボールを奪うとよい（ボールが動いていても相手の体はそんなに早く動けない！）²。まあ、こういうことは文章を読んだから向上するものでもなく、対人の経験を積む、しかも良い選手相手の対人の経験を積むしかなく、トレーニングしかない。羽黒と山東の選手との間に、大きなトレーニングの差を感じる。

1 失点目からすぐの前半 20 分に 2 失点目。よく憶えているのが、前半 30 分の **3 失点目**。細かなスキルでやられたのではなく、左からの（羽黒サイドからすれば右からの）ダイレクトな斜めのロングボール一本に簡単に裏を取られ、そのまま失点。右 CB と右 WB の間を使われたのだが、どちらかが「自分が悪かった」「自分がやられた」というまとめにすぐなったのだったら、まだいいのだが、「いま俺？」とか「いま俺じゃないでしょ」と責任をなすりつけ合うのだったら、個人の人間性の問題もあるが、それ以上にチームの問題。失敗があっても、誰が何をすべきだったのかわかれば（原因／責任を分析できれば）、ではどうすればよいのか（対策）が見えてくる。ダメなチームほど、「切り換えろ」とか「ドンマイ」などの言葉でごまかして、誰が悪かったか、誰がどうすれば良かったかをあいまいなままにする。もちろん、この 3 失点目の場合、右 CB と右 WB の双方にそれぞれ改善点があるような気がする。右 WB は、相手選手が右 CB のブラインドからスペースに走り込むのが見えているのだから、「裏走ってるぞ」と前もって警告を与える、間に合いそうになかったら、自分がその選手を引き受け、いち早く下がって対処できなかったか。右 CB は自分が背負った選手をそもそもブラインドに置かないか、それができない場合は、長いボールが来たら致命的であることを（事前に首を振って確認して）察知していち早く下がって対処できなかったか。右 WB に「裏取られそうだったら声かけてね」と事前に確認しておくのも良い準備の一つ。前半 0-3。

ハーフタイム、具体的な改善点を伝えたかどうかは憶えていないが、「まず 1 点返そう」「試合にすぐ勝とうと思わず、『後半は勝つ』と思おう」などの精神的なメッセージを伝えた憶えはある。しかし、後半勝つどころか、後半開始 2 分、よく分からない形から、とにかくあっさりやられて 4 失点目。これで気持ちが早々に切れた。3 年生の 3 トップは得点を狙って高い位置を取り続けるが、惜しかったシーンが思い出せない。結局、後半も 4 失点で、0-7 の惨敗。FP は何もできなかったが、頼りの **3 年 GK コーセー** もいつものパフォーマンスとは言えず。

プレ引退試合でこれはマズイ。一つ一つ反省して改善を目指すのでは、1 週間後の最終

² だから、対人に自信のある選手・チームは、相手がボールを収めたと見える状況で、セオリー的には簡単に飛び込んでダメというシーンでも、果敢にボールにチャレンジします。ボールをすぐ確保できなくても、ボールと相手の体に向けて自分の体をぶつけに行き、その後相手よりも速くボールに向かうことができれば奪える（ファウルにはならない）、との自信があるから。無謀にボールに向かって簡単にかわされる軽い選手は「下」、慎重に対応して簡単にかわされないが相手のリズム・間合いで仕掛けさせてしまう選手が「中」、簡単にかわされないし自分のリズム・間合いに持ち込んで攻撃的な守備ができる選手が「上」。

戦には間に合わない。とにかく、気持ちだけでも立て直さないと・・・そんな焦りはありましたが、3年生は立派だった。学校祭の準備などで忙しかった部員もいるが、淡々と準備していた。

7月10日(土) **第5節の相手は鶴岡工業**。お互いY1で鎬を削った時代もありました。国士舘大学でも活躍したスーパーな選手がいた時代、鶴工さんは強かったな～。まあ、山東もその時は1部で戦っていた、戦えていたわけですけどね。鶴工は県総体をもって3年生が引退したようで、リーグ戦ではここまで山東と同様4連敗と厳しい戦いを強いられている。**3年生最終戦が、4連敗同士の「負けられない戦い」となってしまった**。会場は山形明正の人工芝ピッチ。前日からの降雨も何のその。ただし、当日も山東の試合時間になったあたりから降り始め、さすがの人工芝ピッチにも所々水たまりが見られる。弱いパスは厳禁(特に横パス、バックパスの弱いパスは)。

会場には前節同様、**清野総監督**と**後藤報道局長**がいらっしゃり、ベンチから3年生最後の試合を見守る。上の駐車場からは、明正さんに特別に観戦を認められた**3年生の保護者の方々**が見守る。明正さん、ありがとうございます！ 試合前、相手のメンバー表を見ると、ほぼ1年生。試合後聞いたところでは、インターンシップがらみで2年生が練習しておらずコンディションが悪いので1年生チームで臨んだとのこと。試合前、その具体的な理由は知らなかったが、とにかく、必勝を期す山東としてはありがたい巡り合わせだったのか。スタメンでは、**グッチこと2年ノグチ**をCBから1列上げて久しぶりにボランチで起用、**ナナちゃんこと2年ナナミ**を左SHで起用と、1・2年主体。3年生は、**GK コーセー、FW ダイキ、右SH テグチ**のみスタメンに名を連ねる。

試合が始まると、すぐ山東の攻撃が相手のゴール前に迫る。**ダイキ**が開始15秒でシュート、GKが弾いたところをさらにボレーシュート。2本目のボレーは決めてほしかったシュートだったが、枠の外。「何かこの試合の行く末を暗示しているような入りだな～」とチラッと思う。試合後に、「結局あのシュートが入っていれば何の問題もなかったんだよ」とオープニングのビッグチャンス(外し)を恨めしく思うことが多い。山東攻めるが入らない序盤、その膠着を破ったのがグッチ。前半7分、**1年で一番伸びたと顧問・コーチが共に評価する2年右SB ミスキ**のナイスクロスを**グッチ**がヘディングで合わせて、先制。11分には**ダイキ**がこぼれ球をやっと枠に入れ、追加点。ただ、その後は打てども打てども入らない。「弱いわけだよ」とベンチでぼやく。**1年FW マサツナ**は力強くゴールに迫るものの、キック技術不足。「こんなに決定機を得て2得点は恥ずかしい、後半から3年生全員出場させたいのに」とベンチでヤキモキ。そんな状態の前半37分、マサツナにまた縦パスが通り、マサツナ、ゴール中央で決定機。「あと数メートル進入して打てば入る。しかし、今回もダメだろうな」などと期待せず見ていたら、相手のタックルを受けて転び、PK獲得。一番良い仕事しました。**3年主将テグチ**がPKを決めて、3点目。これでやっと楽になりました。前半39分には、**ダイキ**が素晴らしいスライディングシュートを決めて、**前半で4-0**。あのね、ダイキ君、そんな技術あるんなら、もっと簡単なシュートしっかり決めなさい。

後半から、**ボランチにトヨバッチ、左SHにショーマ、右SHにソーゴ**というように3

年生3人を投入。**これで3年生6人全員がピッチに立った**³。後半も山東優勢。**ダイキ**のハットトリック達成、**テグチ**も2点目をゲット。どさくさに紛れて、**2年ボランチシュンスケ**もこぼれ球を押し込む得意の形から2得点。試合が決まった状況ながら、派手なガッツポーズ。**ソーゴ**はクロスで、**ショーマ**はドリブルで見せ場を作る。ただ、前半より鶴工のカウンターを浴びることが多くなってきた。それでも失点するとは思われなかったが・・・中途半端なチームとはまさにこのこと。DFがボールを奪われ、サイドを破られ、GKと1対1。GKも抜かれて、後半アディショナルタイムに失点で8-1。何でこう試合の閉じ方が下手なのかな～とぼやいていると、直後に**トヨバッチ**がミドルシュートを放つと、バーに当たって下に落ちてそのまま入るファインゴールとなる。「よっしゃ～」と言ったかどうか定かでないが、雨も上がり、試合も決した段階の最後の最後、**静寂の明正Gにトヨバッチの雄たけびが響き渡った**ところで、試合終了のホイッスル。

そうそう、後半半ばの飲水タイムにて、「俺のFP ないですか」とGK コーサーが打診してきた。確かに、勝ち点3 危うくなったら、彼をFP で出して1点を狙いに行くはずだった。試合は最初から山東に傾いたので、彼をFP で出すことは頭になかった。が、(後半の前半までは) ほぼGKの出番のない試合だったので、FP で出たくなかったのもやむを得ない。「む、む、む(どうしよう)」となったが、FPの交代枠最後の1枚をもう**1年生のヤマト**に渡して準備していた。まだ、交代成立していないので、ヤマトの交代をキャンセルすることも可能だったが、一度言っちゃったしな～。ゴメン、コーサー！ それも想定に入れておけばよかったな～。**8月7日のOB戦**で、FPも鍛えていたところを見せてくれ！

リーグ戦で待望の勝ち点3を得て、3年生は引退試合を勝利で飾る。鶴工さんの事情もありましたが、とにかくホッとしました。3年生保護者の方も、試合を楽しんだようで、得点の入るチームの試合は面白いことを、**山東で初めて**感じる事ができた模様。最後に、3年生が保護者に挨拶をして、記念撮影をして、良い一日を終えました。**選手権まで残る3年生はいない模様。新チームは1・2年生だけになりますね。応援よろしくお願ひします。**

7月17日(土) YZA改正第6節 山形明正戦 @山形市球技場 16:00キックオフ

7月22日(木) YZA改正第7節 東海大山形B戦 @米沢SF 16:00キックオフ

7月24日(土) YZA改正第7節 米沢中央B戦 @山形明正 12:00キックオフ

3年生引退式行われる

7月12日(月)引退式が行われました。以下で、1・2年生に対する3年生のコメントのダイジェストをお伝えします。

ソーゴ

継続することが重要。自分のこだわっている部分を決めて、継続して努力してほしい。自

³ **オニコシ**さんは「気持ちが続かない」という言葉とともに「90分は長すぎる」という謎の一言を残して2週間前に引退しており、この日は1年生の時に退部したがこの最終戦に応援に来てくれたチアゴことショータともに応援してくれましたので、**マネージャーのミクリ**を含め7人がこの日ピッチレベルにおりました。

分も少しずつではあるが向上できた。

ダイキ

2年途中まで練習が嫌いでサボることを考えていたが、途中から練習の意味を考えて積極的に取り組むようにした。キックについて、ボールをどこに置いても蹴れるように、蹴りにくい場所にボールを置いてしまったとしてもそのまま蹴って練習するよう心掛けた。

オニコシ

辞めてしまう部員いるが、楽しむことが重要。短期の個人目標を立て、達成感を得ながら頑張ってもらいたい。

コーセー

力がなく不安な気持ちのままサッカーして辛かったが、地区総体で結果が出て、うれしかったし自信になった。強い相手にも果敢に挑戦して欲しい。

ミクリ

選手のモチベーションがマネージャーのモチベーションになる。1年冬からマネージャー始め、当初の予想に反して同学年の部員と仲良くなれてよかったし、サッカー部に入ってよかった。

トヨバ

辞めたくなくなる気持ちもあったが、辞めたら負けだという思いで続けた。楽しめなくても、耐えよ。県総体ではPK蹴れたこと自体ありがたい、という感謝の気持ちでいる。

ショーマ

靱帯切って、リハビリ期間が長かった。復帰まで様々な人にお世話になり、本当に感謝している。その期間で自分はサッカーが好きだと再確認でき、今では大学でも続けようと思っている。

テグチ

部活やれることに感謝の気持ちを持つ。自分はいまい選手ではなかったが、何か一つでもチームに貢献しようという気持ちでプレーした。部長のストレスも感じたが、オフ期間にこの学年で自主練習をして部活に対して前向きになれた。キツかったが楽しい高校サッカーだった。